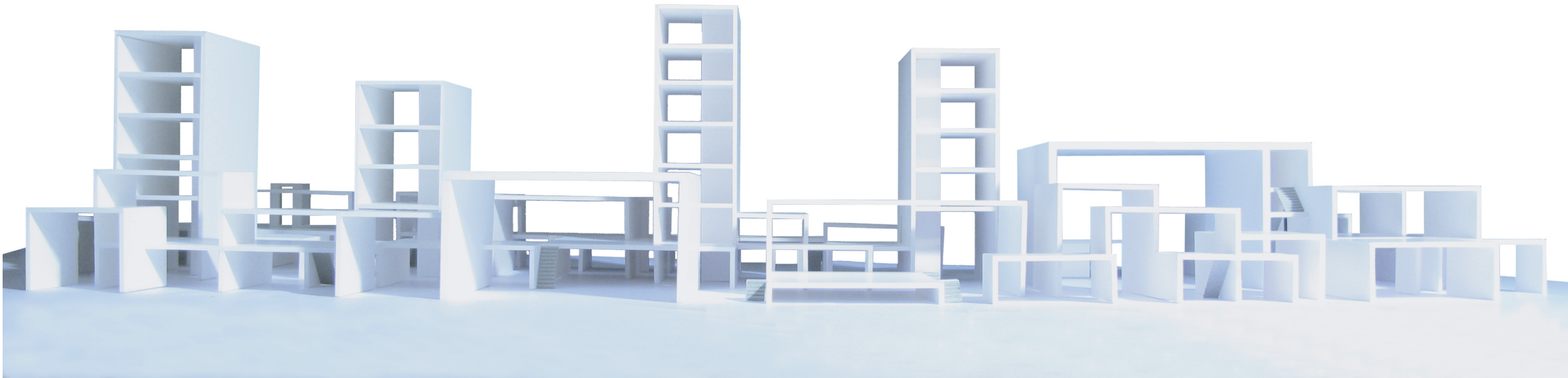




背景

近年、全国的に都市の中心商店街の衰退が叫ばれているが、高知市の中心市街地でも郊外に進出した大型ショッピングセンターの影響から商店街の衰退が進行している。本計画地は市街地のアーケードに面した通りの中で最も広い敷地で、ダイエー撤退によりできた将来の土地利用について無計画の敷地である。その広さ故にこのまま無計画のまま時間が過ぎて行くと、敷地周辺に与える影響は小さくない。事実、ダイエーが撤退後アーケード北側の暗く閉ざされた店舗によって、アーケード内の雰囲気は一変し、中心市街地西側の地区は活気が失われつつある。アーケード内に大きく穴があき目的が無くなることで、アーケードが単なる通路と化している。中心市街地のアーケードに面した大きな土地の利用が未だに無計画ということはそれだけで大きな問題と言える。

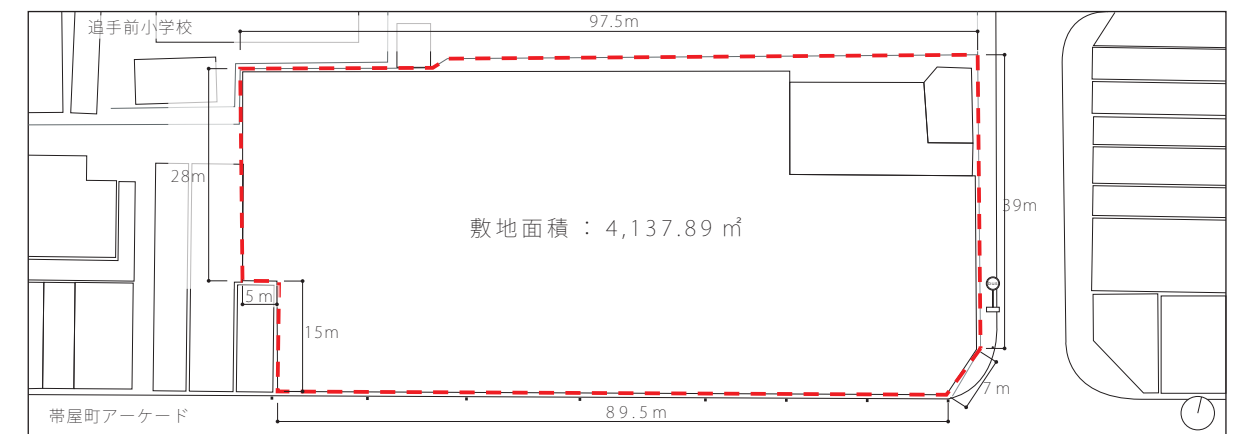
敷地

高知県高知市の中心商店街「帯屋町」のアーケード沿いにある土地を今回の計画地として選んだ。本計画地は平成 17 年に撤退したダイエー跡地(2007 年 12 月現在解体中)である。

敷地南側はアーケード、北側は追手前小学校(平成 25 年 4 月に新堀小学校と合併統合される予定。将来の土地利用方法は未定)、東側は県道にそれぞれ面している。

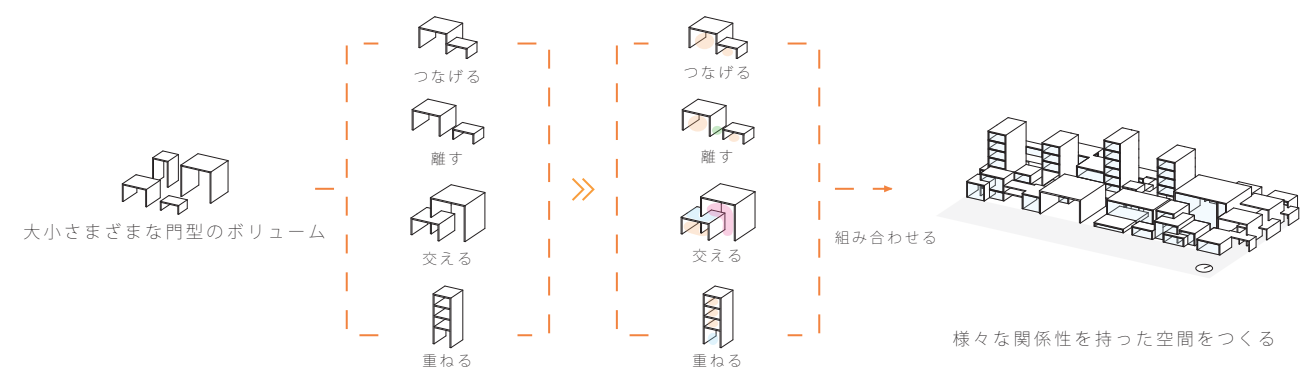
コンセプト

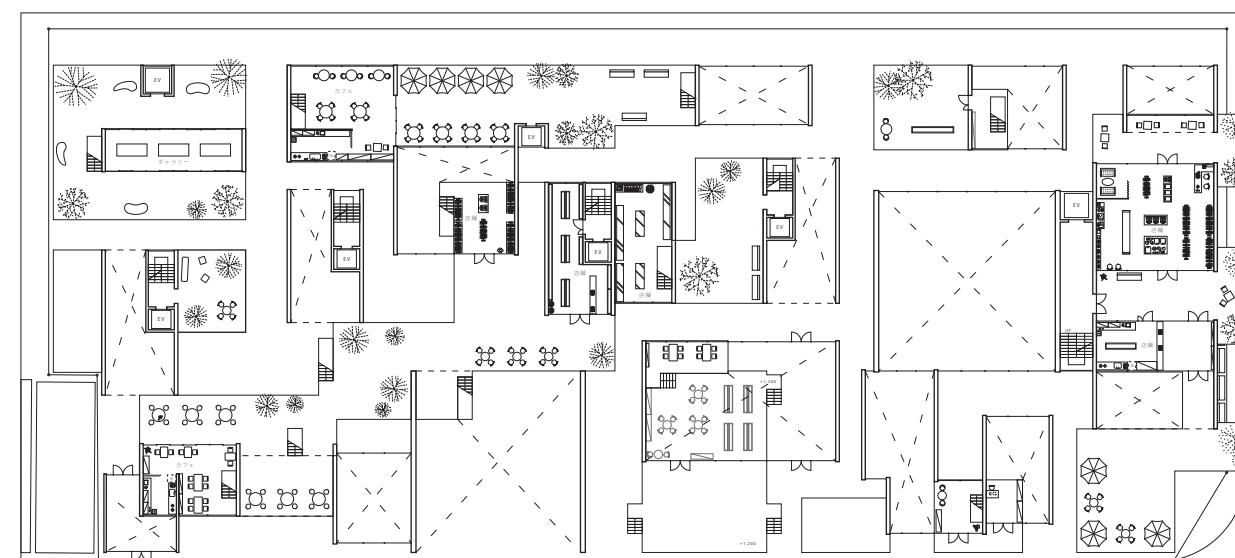
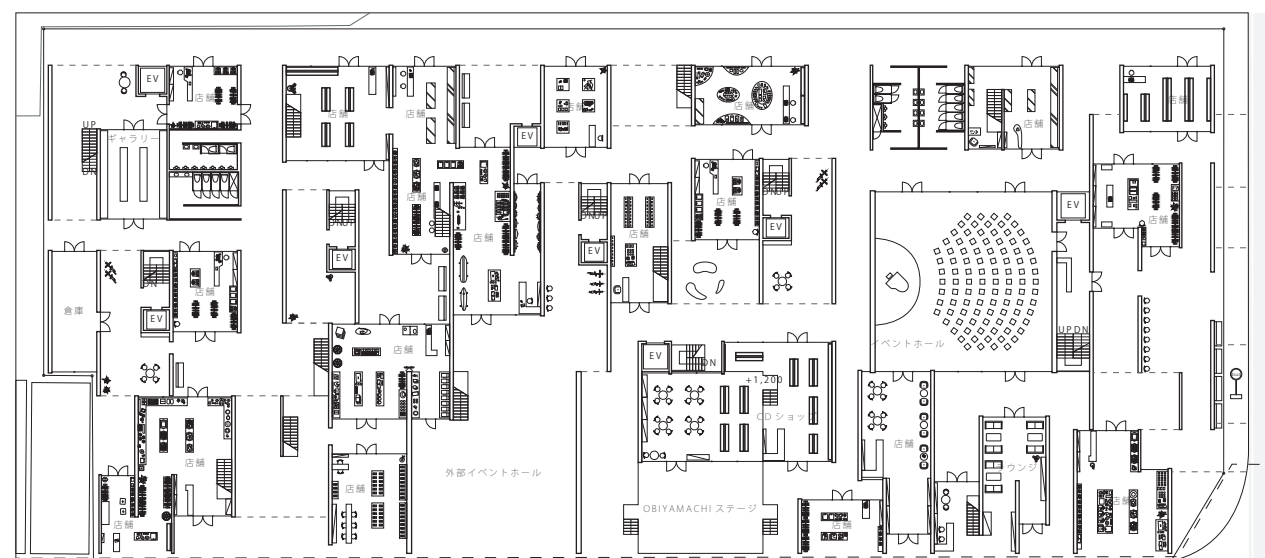
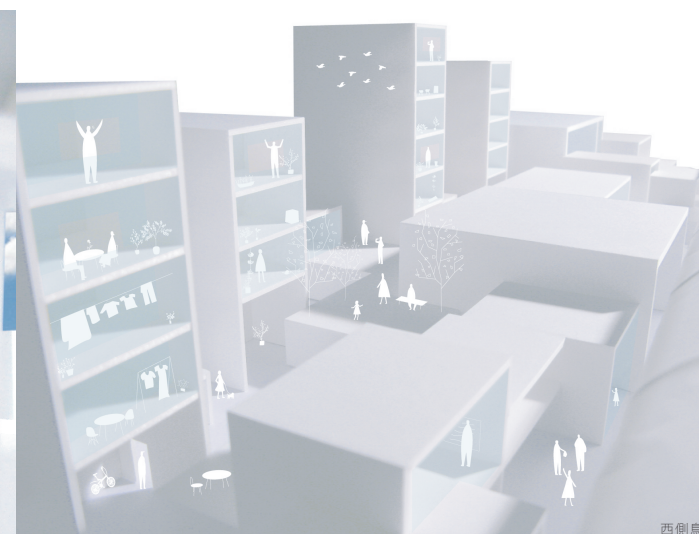
商店街の持つ魅力とは、多くの店や物・人や出来事がごく小さな範囲に集中して存在するところにある。多様なもので溢れかえった空間の持つ、にぎやかで独特な雰囲気こそが商店街の魅力であり楽しさでもある。そんな商店街の持つ多様性と、人を引き込むような奥行きを持った複合型商業施設を高知市の中心市街地にあるダイエー跡地に提案する。アーケード側に対して開いた門型の基本ユニットを重ねたり・交えたり・つなげたりと、組み合わせ連鎖させることで内と外・上と下・手前と奥など様々な性格を持った空間をつくり出す。それらの空間に店舗やイベント空間、住居、道、公園など商店街を構成する要素を取り込んで行く。多様な関係性を持つ空間に人やもの・出来事が錯綜しにぎわいを演出する。



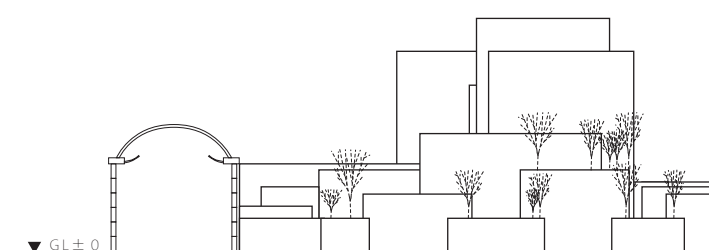
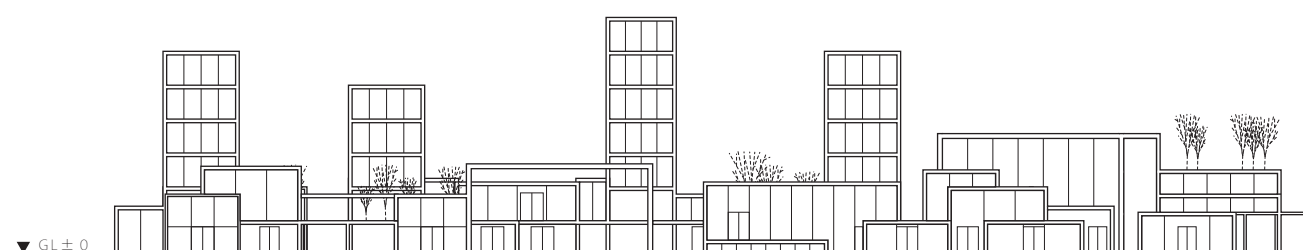
対象敷地平面図 s=1/1000

コンセプトダイアグラム





2階平面図 S=1/600



東立面図 S=1/250